

高養研

発行 北海道高等学校養護教諭研究会
事務局 北海道札幌月寒高等学校
〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条3丁目
TEL 011-851-3113 FAX 011-851-3112
<http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>



北海道高等学校養護教諭研究会

会長 三村 素道

(北海道札幌月寒高等学校長)

昨年度に引き続き、今年度も北海道高等学校養護教諭研究会(高養研)の会長を務めることとなりました。本研究会は、今年度で40年目を迎えることとなります。これもひとえに、会員の皆様の専門性向上への強い思いや学校保健に対する真摯な取組と、諸先輩方のこれまでの実践や努力の賜物と感謝しております。このように長い歴史を持つ高養研の一層の充実、発展に向けて、私も微力ながら尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今、社会は、グローバル化の進展やAI・IOTなどの絶え間ない技術革新等により社会構造や生活環境は、大きく、また急速に変化しており、その先の予測が困難な時代、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の時代、「VUCA」の時代とも言われています。少子高齢化や人口減少、感染症や紛争・戦争など、先の見通しの立たないことが多くあります。こうした時代の中であって、我々には、社会の変化に受け身で対処するのではなく主体的に向き合いながら未来を切り拓いていく資質・能力を身につけ、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、道内はもとより、日本そして世界に飛躍し、未来の創り手となる心身ともに健康な子どもたちを育成していくことが求められているところです。

養護教諭等は「教師」とであると同時に、他の教諭等とは異なる専門性を有し、その職務についても、子どもたちの健康課題に対する個別な対応を担うなど、授業における教科等の指導を日常的に行う教諭等とは異なる性格を有しており、「現在及び将来における子どもたちの心身の健やかな成長に大きく貢献するものである」と、その存在意義が示されているところです。また、養護教諭は、子どもたちの身体的不調の背景に、いじめや不登校、虐待などの問題が関わっていること等のサインにいち早く気付くことができ

る立場であることから、健康相談においても重要な役割を担っています。しかし、上記のような社会の急激な変化の中で、子どもたち、それぞれが抱える課題も多岐にわたり、対応に苦慮することも多くなってきています。

種の形成理論を構築し、進化生物学を発表した地質学者・生物学者であるチャールズ・ロバート・ダーウィンが「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」と述べています。時間とともに我々を取り巻く環境は急速に変化しています。生き物の世界では、環境に合わせて進化できなかったものは絶滅の道を歩むことになります。社会環境などの変化に対して適応するためには、自分自身が変化するしかありません。生徒を育成する立場にある我々自身が、これからも「学び続け、変わり続ける勇氣」を持つとともに、生徒の育成にあたっても、このことに留意する必要があるということです。

高養研は昭和61年(1986年)の設立以降、「高等学校に勤務する養護教諭としての特性、専門的知識並びに技術の向上を図り、もって学校保健の発展に寄与すること」を目的として活動してまいりました。学校は、子どもたちが安全・安心に学ぶことができる場として、また教師と子ども、子ども同士など、人とつながることができる場として、さらには身体的・精神的な健康の保持増進にも大きな役割を担っていることを踏まえ、養護教諭としての資質・能力の向上を図り、子どもたちの心身の健やかな成長に向け、互いの実践から学び合う「高養研」を、会員の皆様とともに展開していきたいと思っております。

今年度も高養研に対する皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

北海道高等学校養護教諭研究会第40回研究協議会のご案内

【開催日】 令和7年7月29日(火)・30日(水)

【日程】

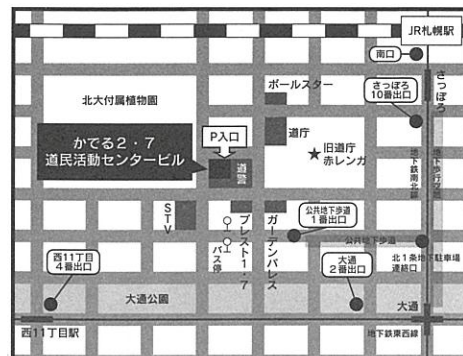
7/29	12:50	13:10	13:20	15:20	15:45	7/30	9:15	9:30	9:50	11:50	13:10	14:30	15:20
(火)	受付	開会式	講演1	地区幹事会		(水)	受付	総会	講演2	昼食	研究発表	助言・情報提供	閉会式

【場所】 かでる2・7（北海道立道民活動センター）
札幌市中央区北2条西7丁目 TEL011-204-5100

【アクセス】 ○JR札幌駅南口：徒歩13分
○地下鉄 さっぽろ駅（10番出口）：徒歩9分
大通駅（2番出口）：徒歩11分
西11丁目駅（4番出口）：徒歩11分
○公共地下歩道（地下歩行空間から北1条地下駐車場連絡口をお通りください）1番出口：徒歩4分
※車でのご来場はご遠慮ください。

【昼食】 各自でご準備ください。食事は研修室でできます。

【参加対象】 北海道高等学校養護教諭研究会会員
※会場の収容人数の都合上、事前に申し込まれた会員のみ参加となります。



講演 1

演題 「勇気づけと承認のコミュニケーション」

講師 株式会社チームダイナミクス 代表取締役 三浦 将 氏

<講演要旨>

人の成長を促進するために、普段どんなことに気をつけ、どんなコミュニケーションを取っていますか？

そのコミュニケーションによる結果（相手との関係性の構築、相手が実際に行動、実践したことなど）は、あなたが望んでいたものとなっているのでしょうか？

そんな中、傾聴は、人と人をつなぎ、相手の潜在的な力の発揮にも貢献します。

この講演では、アドラー心理学を応用した傾聴を中心とした、勇気づけと承認のコミュニケーションをお伝えします。

講演では、実際のワークで、数パターンのコミュニケーションを行い、それぞれの感じ方の違いを体感していただきながら、その背景にある理論をお伝えしていきます。

<プロフィール>

人材育成・組織開発コンサルタント/エグゼクティブコーチ

英国立シェフィールド大学大学院修了（MSc：Master of Science 理学修士）

大阪府立大学工学部卒業

早稲田大学オープンカレッジ講師

大手広告会社、リーバイス、ギャップなどの外資系企業を経て、「休み明けの朝、元気に仕事に向かう人をこの社会に増やす」を目的とし、人材育成・組織開発コンサルティングや企業研修プログラムを提供する株式会社チームダイナミクスを設立。

アドラー心理学やコーチングの技術を駆使した手法で、リーダーシップと主体性のある人材の育成をサポートしている。「知識を能力に変える」研修プログラムの実績により、リピート率は、実に95%を超える。

『自分を変える習慣力』『チームを変える習慣力』（クロスメディア・パブリッシング）、『リーダーのコミュニケーション習慣力』（三笠書房）他、著書は累計30万部を超える。

エグゼクティブコーチ、講演家としても、企業や官公庁から多数の依頼を受けている。

株式会社チームダイナミクス お問い合わせ inquiry2019@teamdynamics.co.jp

株式会社チームダイナミクス ウェブサイト http://www.teamdynamics.co.jp



講演 2

演題 「LGBTQ+の児童生徒の存在を認識した学校での取り組み」

講師 宝塚大学看護学部教授、京都大学医学部非常勤講師

日高 庸晴 氏



<講演要旨>

生徒理解のひとつに性的指向やジェンダーアイデンティティの多様性があり、さまざまな多様性があることを前提にした対応が学校現場に求められるようになっていきます。

筆者がLGBTQ+当事者を対象に実施した2019年実施の全国調査（有効回答数10,769人）によれば、『用事があったのに保健室に行ったことがある』と回答した割合は全体で24.2%、10代ではその経験割合がより高く32.9%でした。『刃物などでわざと自分の身体を傷つけた自傷行為』は全体で14.2%、10代では25.6%とより高率でした。不登校の経験においても同様の傾向であり全体で22.6%、10代の30.2%に経験があることがわかっています。2016年調査（有効回答数15,064人）では小・中・高いずれかでのいじめ被害経験は58.2%であることや、いじめ被害経験者中63.8%が性的指向やジェンダーアイデンティティに関連する「ホモやおかま」といったverbal abuseといった言葉によるいじめ被害があり、18.3%は服を脱がされる被害にまで遭っていました。当日は学校現場に求められる取り組みについて、当該集団の学齢期等のライフイベントの実態を調査データと共に報告します。

【事前学習として法務省企画の映像の視聴をお勧めしています】

映像の紹介 <https://lgbtq-jinken.jimdo.com/>

動画本編（30分） <https://www.youtube.com/watch?v=G9DhghaAxlo>

<略 歴>

京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了、博士号（社会健康医学）取得。カリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部エイズ予防研究センター研究員等を経て現職。

文部科学省が2016年4月に発表した性的指向と性自認に関する教職員向け資料の作成協力、監修した法務省企画の人権啓発映像はYouTubeで約272万回の再生回数にのぼっている。これまでに文部科学省・厚生労働省・法務省・人事院・警察庁や最高裁判所に設置されている司法研修所、地方公共団体が主催する研修講師を多く務める。2023年には内閣府「性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議」における初回の有識者ヒアリングでこれまでの調査結果を報告した。

監修したDVD教材「LGBTs（エル・ジー・ビー・ティーズ）の子どもの命を守る学校の取組 当事者に寄り添うために～教育現場での落とし穴」は文部科学省特選を受賞、NHK「ハートネットTV」「視点・論点」など新聞やテレビなどマスコミ出演多数。

<出版物等>

日高庸晴（2025）LGBTQ+の健康レポート 誰にとっても心地よい医療を実装するために（医学書院）

日高庸晴/訳（2023）ぼくのスカーツ（小学館）

日高庸晴（2019）パワポLGBTQをはじめとするセクシュアルマイノリティ授業（少年写真新聞社）

Hidaka Y., et al（2008）Attempted suicide and associated risk factors among youth in urban Japan. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology. 43:752-7.

Hidaka Y, Operario D（2006）Attempted suicide, psychological health and exposure to harassment among Japanese homosexual, bisexual or other men questioning their sexual orientation recruited via the Internet. Journal of Epidemiology and Community Health. 60:962-967

研究発表

主 題 「養護教諭が行う健康相談

ーオノマトペ表現を活用した高等学校における内科用米室記録の検討ー」

発 表 者 北海道函館水産高等学校 養護教諭 多田 三佳 先生

<研究発表要旨>

道南地区高等学校養護教員会は、現在4つのグループに分かれて研究を行っています。今回は、この4つのグループ研究の中から代表して発表いたします。

私たちのグループは、保健室で生徒と接する際、生徒が自身の心身の状態を上手く伝えられない場面があり、それは養護教諭が適切な支援を行う難しさにつながると考えました。こうした課題を解決する手段として、感覚的な表現を豊かに伝える「擬音語・擬態語」（以下、オノマトペ）に注目しました。オノマトペは、感覚的な言葉でありながら「肉体感覚や心の感覚を表そうとしたとき、ないと困るもの」とされ、形容詞よりも気分や感情をストレートに伝える手段として有効であると考えられています。そこで、オノマトペを保健室来室記録に取り入れ、身体症状だけでなく、生徒の心の状態や感情も同時に把握することによって養護教諭が行う健康相談に役立つのではないかと考え、令和6年4月～7月にグループの養護教諭の勤務校にてオノマトペを取り入れた保健室来室記録のデータを収集し分析しました。その結果を発表いたします。

助言・情報提供

情 報 提 供 「学校保健の課題とその対応」

提供・助言者 北海道教育庁学校教育局 健康・体育課 健康・体育指導係 指導主事 小西 亜紀 氏

【全国養護教諭連絡協議会 第30回研究協議会参加報告】

北海道遠軽高等学校 石川 かおり 先生

オホーツク管内より参加させていただき、子供たちが直面する困難な現状とウェルビーイングの向上について深く考える機会となりました。近年、家庭環境の多様化やSNSの普及、コロナ禍の影響などにより、子供たちの生活や心の状態が大きく変化している現状があります。不登校やいじめ、自己肯定感の低下、ストレスによる心身の不調を抱える子供が増えているという報告を受け、その深刻さを改めて実感しました。

協議会では、単なる病気やけがの対応にとどまらず、予防的・包括的な支援の重要性が強調されました。子供たちが安心して過ごせる環境を整えるためには、養護教諭が“よき理解者・伴走者”として寄り添い、その姿勢を学校全体の支援体制へと広げていくことが不可欠です。ウェルビーイングとは、心身の健康だけでなく、自己肯定感を持ち、人とのつながりを大切にしながら豊かに生きる力を育むことだと学び、大いに共感しました。

今後は、保健室を単なるケアの場ではなく、子供たちが安心できる居場所としての役割をより強化したいと考えます。また、学校全体で小さなサインを見逃さず支える体制を意識し、日々の実践に活かしていきます。今回の学びを大切に、子供たちが自分らしく輝けるよう、心と体の両面から支援を続けていきたいと思ひます。

事務局連絡

○会員になって一緒に学びませんか。

高養研・高教研養護部会の会員になって、一緒に学びませんか？

会の活性化のために、会員を募集しています。入会・参加申込書は高養研のWEBページからダウンロードできます。また、研究会の様子などを掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

【アドレス】 <http://koyoken.sakura.ne.jp/myks/hyousi.html>

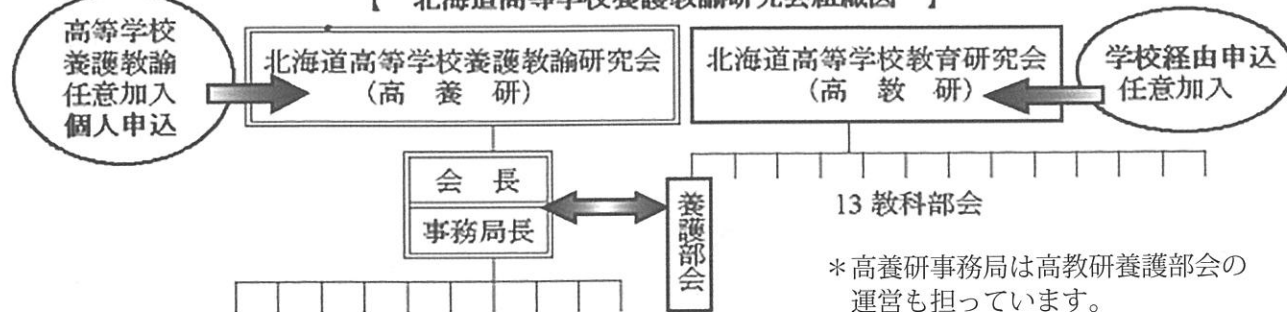
北海道教育委員会、北海道高等学校教育研究会、全国養護教諭連絡協議会、文部科学省、日本学校保健会のホームページへもリンクできます。

○高養研と高教研養護部会は別組織のため、加入手続きが違います。

高養研および高教研の加入について

※ 本研究会（高養研）と高教研養護部会は別組織であるため、研究会に加入する場合は各々所定の手続きが必要となります。

【北海道高等学校養護教諭研究会組織図】



* 高教研養護部会への入会は各学校でとりまとめをしています。ぜひ事前に会員登録をして、冬に開催される養護部会への参加もよろしくお願いいたします。

役員名簿

令和7年度北海道高等学校養護教諭研究会 役員名簿

会 長	三村 素道	北海道札幌月寒高等学校	事務局員	兒玉 亜希	北海道野幌高等学校
副 会 長	中道真由美	北海道石狩翔陽高等学校	事務局員	橋詰 絵夢	北海道札幌英藍高等学校
事務局長	岡 香	北海道札幌月寒高等学校	事務局員	伊藤湯美子	北海道札幌北陵高等学校
会 計	登 祐希	北海道札幌丘珠高等学校	事務局員	滝川 智子	北海道札幌北高等学校
事務局員	山田 美香	北海道札幌手稲高等学校	顧 問	岩崎 弘之	北海道大麻高等学校

令和7年度北海道高等学校養護教諭研究会 地区幹事名簿

石 狩	出村真奈美	北海道大麻高等学校	オホーツク	石川かおり	北海道遠軽高等学校
道 南	内山 純子	北海道大野農業高等学校	釧 根	岡田 菜摘	北海道釧路湖陵高等学校
後 志	兒玉 沙綾	北海道小樽水産高等学校	十 勝	本田 妙子	北海道池田高等学校
空 知	菅原麻里子	北海道栗山高等学校	日 胆	後藤 理紗	北海道虻田高等学校
道 北	武田 美樹	北海道旭川北高等学校			